

第3章 学 校 推 薦 型 選 抜

※令和3年度入試より、大学・短期大学・一部の専門学校では、入試の名称が変わりました。「一般入試」→「一般選抜」、「AO入試」→「総合型選抜」、「推薦入試」→「学校推薦型選抜」となりました。本章では、すべて新しい名称で統一して表記させていただきます。

1 学校推薦型選抜とは

学校推薦型選抜とは、各大学・短期大学等が発表する条件を満たし、学校長が推薦する生徒に対して通常の学力試験を免除し、調査書・面接・小論文・基礎学力テスト等で選抜する制度です。国公立大学の約8割、私立大学・短期大学の9割以上が推薦入試を実施しています。推薦による入学定員は、4年制大学で全募集人数の5割までで、短期大学は制限がなくなりました。

2 推薦の種類

(1) 国公立大学の推薦

① 共通テスト免除の学校推薦型選抜

大学入学共通テストを受験しなくても受けられる学校推薦型選抜です。大学独自の受験科目が設定されています。かなり早い時期に実施する大学もありますから注意が必要です。1月中旬までには合否が発表されます。

② 共通テストを課す学校推薦型選抜

大学入学共通テストの成績と調査書を合否の判定に使用し、大学独自の試験は課さないのが普通です。2月上旬までに合否が発表されます。

○ 注意

いずれの場合も合格すれば他大学の受験資格を失う専願制推薦です。出願基準も評定平均A段階(4.3以上)と高いのが普通ですが、ごく少数4.0またはそれ以下でも出願可能な大学もあります。ほとんどの大学で高校から出願できる人数制限があります。

(2) 指定校推薦と公募制推薦

① 指定校推薦

大学・短期大学等が推薦依頼先を指定します。指定されていない高校からは受験できません。その上級学校に在学する卒業生の実情により人数が指定されることが多いようです。推薦されるとほぼ合格確実の指定校推薦と成績次第で合否が決まる受験者の人数制限のための指定枠推薦があります。(私立大学、私立短期大学、私立専門学校のみ)

② 公募制推薦

大学・短期大学等が発表した成績基準等を満たせば、誰でも出願できる方式です。高校による差はなく、人数制限のない場合が大部分です。また、推薦基準を設けない大学も増えています。本校から推薦する場合、大学・短期大学等の基準によらず、3年間を通して「評定平均」や「欠席日数が少ない」等の条件があるので大学・短期大学等の基準にあっているからといって出願できるとは限りません。

(3) その他の学校推薦型選抜

① スポーツ推薦、特技推薦

部活動などで特に優れた成績を残した場合は、運動系・文化系に限らず、別枠の推薦入試を受けることができます。この制度を取り入れている大学は少なく、また、すべての種目についてこの制度があるわけではありません。実施する大学は早い時期に要項を発表します。推薦入試やセレクションもかなり早くに実施されるので、情報をしっかり入手しないと期限遅れになることも

あります。学校長あての案内のほか、部顧問あての案内がくる場合も多いので、部顧問と連絡を密にしておく必要があります。

② 資格推薦

英語検定・簿記・情報処理などの資格のうち、上級資格を持っている場合に受験できる制度です。一般の推薦条件の中に記載されています。

③ 自己推薦

通常の推薦は、校長の推薦があり、調査書の提出が必要ですが、受験者本人が「自己推薦書」のみを提出して受験できる方式です。一般の推薦条件の中に記載されることが多いのですが、かなり早い時期に一般推薦に先だって実施されることもあります。受験雑誌、新聞、進路指導部などで確認をすることが必要です。

【専願制と併願制について】

① 専願制

合格した場合、必ず入学することを前提にした学校推薦型選抜で、国公立大学・短期大学の推薦はすべてこの方式です。あとから別の学校を希望しても受験できないというデメリットがあります。

② 併願制

合格した場合でも、入学手続きさえしておけば、いくらでも他の大学・短期大学等の学校推薦型選抜（併願できる学校のみ）を受験してよいという方式です。

【新入試 総合型選抜への対応】

学ぶ意欲や学びに対する適性、個性・能力など、受験生の可能性を評価する入試で、旧称ではAOとも呼ばれていた入試です。大学・短期大学が提示する「アドミッションポリシー（入学生受け入れ方針）」に基づいた「求める学生像」と、受験生の「学びたいこと」が合うかどうかのポイントになります。また、多面的・総合的な「学力の3要素（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的に多様な人々と協働して学ぶ態度）」の評価が求められており、選考方法や提出書類なども従来と異なる場合があると考えられるため、注意が必要です。

一般的に示されているものとしては

①小論文・プレゼン・口頭試問・実技・各教科や科目のテスト・資格や検定試験の成績など、あるいは大学入学共通テストの結果

②部活動、ボランティア、資格・検定試験の成績、留学・海外経験などに関する詳細な記入

③活動報告書、入学希望理由書、学修計画書などの資料

が活用されることを念頭におく必要があります。

もちろん、学校ごとで採用される試験等は違ってきますので、受験を希望する学校の選抜がどういう内容なのかを調べ対策をとっていく必要があります。

選考基準となるのは各学校が提示する「アドミッションポリシー（入学者受け入れ方針）」に基づいた「求める学生像」です。そのアドミッションポリシーに受験生が合致しているのかが問われてきます。そのため、エントリーや出願の際に提出する「志望理由書」は、選考を左右する材料になります。「志望理由書」を書く際には、志望校の学校案内やホームページを見たり、オープンキャンパスに参加したりする等して、アドミッションポリシーをしっかりと理解しましょう。そして、その大学・学部等でどんなことをやりたいかということを明確にして、しっかりと伝えることが合格の第一歩です。

3 学校推薦型選抜の受験科目

- ・調査書、面接は必要です（調査書は自己推薦入試では不要）。本校で行う模擬面接指導を積極的に受け、十分な準備をすることが大切です。
- ・学科試験は必ずあるとは限りません。実施される場合、文系では国語と英語、理系では数学と英語の場合が多いのですが、1科目だけの場合もあります。
- ・小論文や作文が課される場合もあります。過去に出題された小論文・作文のテーマを調べ、しっかりと準備をしなければいけません。

●選考方法で最も多いのは書類審査＋面接＋小論文

■選考ポイント

書類審査	面接	小論文
重要なのは 評定平均値と成績の伸び具合 評定平均値は、高校1年生から3年生までのすべての成績の平均。成績の伸び具合は、もちろん以前より上向きであることが望ましい。どちらも高校3年生の前期は特に大切。出欠、特別活動、取得資格、学習や行動の特徴などの要素も評価対象となる。	受け答えの好印象で 自分をアピール きちんとあいさつができるか、質問を理解しているかなどを中心に、受験者の全体像を評価。質問・応答を通して、学部・学科への理解度や学問に対する意欲、人間性などがみられる。	自分の考えや意見を 明確に 小論文によって学校が評価するのは総合学力の有無。出願の意図を理解し、論理的に自分の考え、意見を組み立てるトレーニングをしよう。過去問題へのチャレンジと、つねに社会の動きやニュースを把握しておくことは必須。

■基礎学力を重視する学校推薦型選抜の場合

【理工系で増加傾向の口頭試問】 書類審査 ＋ 面接 ＋ 口頭試問 「口頭試問」とは、学科や専攻に関する基礎知識があるかどうかを評価するための方法。その場で問題が出され、その場で答えなければならない。解答の正否よりも解答するまでのプロセスがチェックされる。	【学力重視の学校に多い】 書類審査 ＋ 面接 ＋ 学科試験 (共通テスト利用も含む) 書類審査 ＋ 面接 ＋ 小論文 ＋ 学科試験 学科試験は、教科書程度の基礎的な出題が多い。
---	---

※その他、体育・芸術・教育系の学校推薦型選抜では、実技試験が課される場合が多い。

4 学校推薦型選抜の問題点

一般選抜に比べて時期が早いことや受験科目が少ないということで、学校推薦型選抜に頼ってしまう傾向があります。しかし、学校推薦型選抜に失敗した場合、これでは一般選抜に対応できないので、あくまでも一般向けの勉強を中心にすべきです。早く合格し安心したいという気持ちから、よく考えないで安易に学校推薦型選抜を受けるといったことがないように気を付けてください。

5 面接試験について

面接は各大学・短期大学・専門学校「求める学生像」(アドミッションポリシー)に限りなく近い人物を選ぶために行われます。志望学部・学科等への適性・意欲や受験への意欲・バイタリティ・自主性などが問われます。志望校を決定するときには、適性(能力、性格、興味・関心)等を正しく判断し、志望動機がしっかりしていることが大切です。

6 小論文試験

学校推薦型選抜では小論文試験への対策が必要です。小論文試験を突破するためには、日頃から本や新聞をよく読み、専攻したい分野や時事問題(ニュース)について、自分の意見をきちんと述べられるようにしておくことが求められます。

(1) 小論文の形式

① 資料型

示された資料やグラフをもとに意見を述べます。資料やグラフに対する理解度、考察の程度、発想の創造性などが試されます。本格的な論文が要求され、国公立の4年制大学、有名私立大学などに多く採用されています。

② テーマ型

示されたテーマに対して意見を述べます。基本的な小論文形式なので、短期大学、専門学校ではかなり多く、4年制大学でも採用されています。

③ 課題文設問融合型(学科試験と複合される方式)

一般的な学科試験(国語、英語など)があつて、その一部や関連した事項について意見を述べます。公立の短期大学などで出題されています。

(2) 小論文と作文、感想文との違い

作文や感想文は自分の経験したことや感じたことを表現しますが、小論文では、事実に基づいた事柄について、曖昧(あいまい)な表現を避け、自分の意見を書きます。ほとんどの推薦入試では作文ではなく小論文が出題されます。文体は「だ」「である」体が適しています。

小論文は、付け焼き刃で安易に対応できるものではありません。また、ここでその対応策を十分に記述することはできません。本校で実施される「小論文セミナー」や「個人添削指導」を積極的に受けましょう。

小論文とは??

課題文やテーマに対し、感情を交えず、表面的な印象だけでなく、なぜそのことが起こり、問題視されるのか、その社会的な重要性は何かを深く掘り下げて論じる。

論理的・客観的
★論理性がポイント

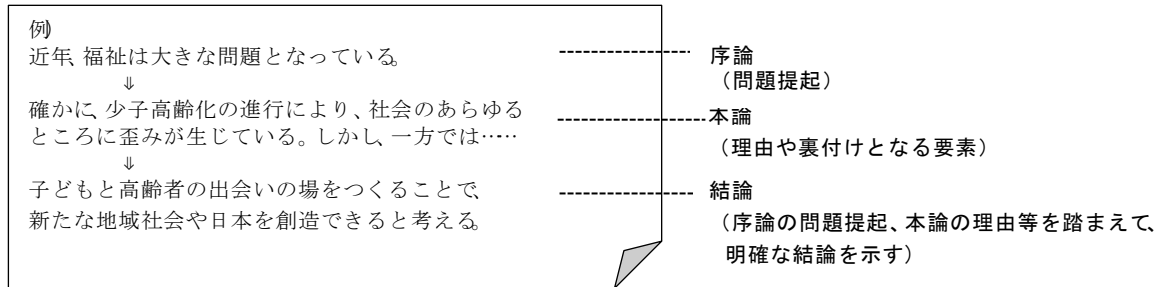
作文とは??

テーマを分析したり、掘り下げて判断したりするための思考や知識よりも、豊かな感受性、鋭い観察力をもって印象深く書く表現力が求められる。

主観的(感想・論理的・客観印象)
★表現力がポイント

■小論文の書き方

- 序論、本論、結論という構成に沿って書く。
- 根拠（理由や裏付けとなる要素）を明確にして、問題点を論理的に掘り下げ、独創的な展開とする。
- 語尾は「だ・である」で統一する。
- 制限字数の90%は埋める。制限字数は絶対に超えないようにする。



(3) 学校推薦型選抜における小論文テーマの例

- ・ 青少年の生活習慣の乱れについての原因とその対策について、あなたの思うことを書け。（800～900 字 90 分）
- ・ 野生動物の市街地への出没情報等を市民が共有することで期待される効果について述べなさい。（800 字 60 分）
- ・ 「介護・ケア」についての課題文を読み、文章の要約と「ヤングケアラー」について、あなたの考えを 600 字以内で述べなさい。（600 字 60 分）
- ・ 医療と健康の分野について、協力関係はどうあるべきか。（800 字 60 分）
- ・ 現代では生命、食、環境に関わる問題が生じているが、その具体例を挙げ、今後バイオテクノロジーやバイオサイエンスがどのようにこの問題に貢献していけると思うか、あなたの考えを論じなさい。（800 字 60 分）
- ・ 現代及び将来の社会でネットワークの普及がもたらす利便性と発展の可能性、そして問題点としてどのようなことが考えられるか。また社会はそれにどのように対処するべきか。（800 字 60 分）
- ・ 出典『デザインのデザイン』原研哉 あなたが今までの生活の中で出会った、「が」ではなく高い水準での「で」を目指していると思われる具体例を取り上げ、その価値観あるいは美意識と、あなたの考えを述べなさい。（500 字 60 分）
- ・ 出典『「脳」の進化学-男女の脳はなぜ違うか』田中富久子 社会的、文化的と呼ばれる「性」の具体的な例をあげ、それについて論じなさい。（600 字 80 分）
- ・ 「今日の子どもたちの持つ人間関係の特徴」（350～400 字 60 分）
- ・ 健康について歴史的変遷を述べ、あなたの健康観を述べなさい。また個人の健康に及ぼす要因について書きなさい。（800 字 60 分）
- ・ 最近、SNS が世界中に広がりつつあり、情報を発信する機会が増えている。しかし、個人情報の流出や発信してはいけない時の情報の発信など、問題が増加している。あなたは医療従事者としてどうすべきかを述べなさい。（800 字 60 分）
- ・ 最近、様々な財・サービスの値上げが相次いでいます。この状況をもたらした背景を示し、その背景が財・サービスの値上げにつながっている理由を述べなさい。（601 字以上 800 字以内 60 分）
- ・ 自分が今までの学校生活（社会生活）において、精神的に緊張もしくは混乱したことを述べ、その時どう対応したのか、その結果どうなったか、その体験を通して何を得たのか。歯科衛生士の職業に就いたらどう活かすかを書きなさい。（600 字 50 分）